

1. 職名・氏名 講師・松本涼2. 学位 学位 文学修士, 専門分野 西洋史学, 授与機関 京都大学, 授与年月 2007年3月

## 3. 教育活動

<b>(1)講義・演習・実験・実習</b>
①担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 「西洋史」(2単位 毎年開講) 1・2・3年生(2017年～2019年度)
②内容・ねらい(自由記述) 今年度はBrexitとの関連から「イギリスとヨーロッパ」をテーマとし西洋史を概説した。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫(自由記述) これまではヨーロッパ全体を対象としていたが、とくに世界史未履修者には理解が難しく、世界史を高校で履修していた学生にとっては内容が薄くなってしまおうという問題があった。本年度はイギリスのEU離脱という時事問題もあったため、イギリス一国に絞って大陸ヨーロッパとの関係を軸に講義をした。例年よりは話のつながりが伝わりやすく、特定のトピックを深掘りすることもできたので、しばらくはこの形式を続けたい。
①担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 「神話学」(2単位) 1・2・3年生(2016年度～2019年度)
②内容・ねらい(自由記述) 北欧神話を題材として、神話とそれを生み出す・利用する社会との関係を考察した。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫(自由記述) 神話学は関心の度合いによって習熟度の差が激しいため、前提知識が無くてもわかるよう留意して授業を進めている。イラスト付の人物関係図を資料として配付したり、視覚資料(画像・映像・マンガ等)による解説を増やすなど。本年度は中世北欧を舞台としたマンガ『ヴィンランド・サガ』がアニメ化されたため、本作品も授業で多用し、好評だった。
①担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 「導入ゼミ(ヨーロッパの歴史と文化)」(1単位 毎年開講) 1年生(2019年度)
②内容・ねらい(自由記述) 前半はヨーロッパの歴史と文化に関するテキストの分析を通じて、読解力・批判的思考力を養う。後半はレポート作成を通じて、大学での勉強方法を実践的に学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫(自由記述) 2018年度に引き続き大福帳を取り入れ、学生が自分の学習状況を把握し、質問・コメントを通して教員とコミュニケーションを取りやすくした。ただ、ここ数年ゼミ

ミに途中から出席しなくなる、もしくは出席はしたが最終レポートを出さないなどの学生が見られるようになった。この点についての対策は今後の課題である。

**①担当科目名(単位数) 主たる配当年次等**

「教養ゼミ(ヨーロッパの歴史と現代社会)」(1単位 毎年開講) 1年生(2019年度)

**②内容・ねらい(自由記述)**

新書の読解を通してヨーロッパの歴史・文化と現代社会とのつながりを考える。今年度は庄子大亮『アトランティス・ミステリー』を輪読した。

**③講義・演習・実験・実習運営上の工夫(自由記述)**

各受講生に担当を割り振り、本の要約レジュメを作成し発表してもらうことで要約や発表の技術向上をめざしている。また「導入ゼミ」同様、大福帳を通して学生とコミュニケーションを図っている。今期も25名とゼミとしては人数が多いため、大福帳の効果は大きいと感じた。

**①担当科目名(単位数) 主たる配当年次等**

「学術ゼミ(西洋史)」E・F(2単位) 2・3・4年生(2016年～2018年度)

**②内容・ねらい(自由記述)**

歴史史料や研究書を読み、歴史と史料との関係や過去と現代とのつながりを考察する。今年は前期18名(4年生3名、3年生4名、2年生11名)、後期8名(4年生1名、3年生2名、2年生5名)と例年より人数が多かった。

**③講義・演習・実験・実習運営上の工夫(自由記述)**

人数が多かったので、フリートークではなく毎回の要約発表担当者を決めて発表を聞いてから議論をするようにした。テキストは『文系と理系はなぜ分かれたのか』『姦通裁判』などの新書からアイスランドのサガまで多岐にわたったが、毎回一度は全員が発言をするよう促した。

**①担当科目名(単位数) 主たる配当年次等**

「日本の文化と社会」(2単位) 1・2・3年生(2017～2019年度) オムニバス

**②内容・ねらい(自由記述)**

オムニバス授業のコーディネーターと1回分の講義(歴史学から「もののけ姫」にみる日本中世社会像)を担当した。

**③講義・演習・実験・実習運営上の工夫(自由記述)**

コーディネーターとしては、映画を観る回でも感想をまとめて配布する、最後のまとめの回では自分が講義を通して考えたことを紹介する、独自の授業アンケートを作成するなどの工夫を行った。

**①担当科目名(単位数) 主たる配当年次等**

「歴史学特殊講」(2単位) 1・2・3年生(2017～2019年度) 小浜出講

**②内容・ねらい(自由記述)**

アイスランドの歴史・文化・社会をテーマとし、歴史研究の一事例としてアイスランドの歴史と現代の文化・社会とのつながりについて考察した。

**③講義・演習・実験・実習運営上の工夫(自由記述)**

小浜キャンパスで2コマ連続講義となる点を生かし、映画の全編を鑑賞する回を作ったり、なるべく連続性をもつテーマを設定したりした。アイスランドの現代政治については、専門家をゲストスピーカーとして呼ぶこともできた。また、25人前

後の少人数授業なので、学生からの質問やコメントにもできるかぎり答えることでコミュニケーションを図った。

## (2)非常勤講師担当科目

①担当科目名(単位数) 開講学校名

②内容・ねらい (自由記述)

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)

④本学における業務との関連性 (自由記述)

## (3)その他の教育活動

### 内容

静岡大学人文社会科学部前期集中講義「比較文学各論Ⅱ」

福井大学教育学部出講：前期「世界史B(西洋中世史)」後期「西洋史概説」

放送大学面接授業「西洋中世の歴史と亡霊」

#### 4. 研究業績

##### (1)研究業績の公表

###### ①論文

(タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所について)、掲載雑誌名(号数)、掲載(受理)年月日)

「ヴァルハラは理想か? ——現代日本と北欧神話」単著、『立命館言語文化研究』31-1、2019年7月31日、189-202頁。

###### ②著書

(タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ)、出版年、出版社名)

『映画のなかの「北欧」: その虚像と実像』分担執筆(担当: 第44章「氷の国のノイ」) 2019年、小鳥遊書房。

###### ③学会報告等

(タイトル、報告学会(大会)名(開催年月日)、共同報告者の有無(共同報告の場合は主たる担当箇所))

【講義】“The Reception History of Norse Mythology and Saga Literature in Japanese Popular Culture”, *Lecture Series—Storyboards: Borderlands*, University of Greifswald, (2018年5月2日)、単独講義。

【口頭発表】“When was *þegnigildi* Introduced into Norwegian and Icelandic Medieval Laws?”、第17回国際サガ学会(2018年8月15日)、単独報告。

【口頭発表】“Rewriting the Myths and Culture: ONE PIECE, The Mythical Detective Loki and Saint Young Men”, *Magnað Manga - Conference on Manga studies* (2018年8月16日)、単独報告。

【口頭発表】「ヴァルハラは理想か? ——現代日本と北欧神話」、シンポジウム「日本のファンタジー文化における西洋中世のイメージの源泉と受容」(2018年11月10日)、単独報告。

【口頭発表】「13世紀アイスランドにおける宮廷奉仕と貴族の形成」京都大学西洋史読書会大会(2019年11月3日)、単独報告。

###### ④その他の公表実績

【学界動向】「「若手研究者問題」シンポジウム2017: 歴史学の担い手をいかに育て支えるか—日本歴史学協会「若手研究者問題」アンケート調査中間報告書から—」『ジェンダー史学』第13号、140-141頁、2017年。

【項目執筆】『北欧文化事典』担当: 「アイスランドの歴史」170-171頁/「アイスランド中世文学」256-257頁/「現代アイスランドの社会」62-63頁、2017年、丸善出版。

【新刊紹介】「Ármann Jakobsson & Sverrir Jakobsson (eds.), *The Routledge Research Companion to the Medieval Icelandic Sagas*, London & New York, Routledge, 2017, 364p., £148.00.」『西洋中世研究』10, 2018年12月. pp. 242-243.

【学会レポート】「2017年度若手セミナー報告 古典再読: ハスキンス『十二世紀ルネサンス』を読み直す」担当: 趣旨説明『西洋中世研究』第10号、185-201頁、

2018年12月。

**【学会レポート】**

「2018年 第17回 国際サガ学会参加記」『日本アイスランド学会会報』第38号、32-35頁、2019年6月。

**(2)学会活動等**

**学会でのコメンテーター、司会活動（担当報告名、担当学会(大会)名(開催年月日)）**

【コメント】「西洋史若手研究者問題検討ワーキンググループから」日本歴史学協会「若手研究者問題」シンポジウム2017『歴史学の担い手をいかに育て支えるか～日本歴史学協会「若手研究者問題」アンケート調査中間報告から～』（2017年3月4日）。

【司会】歴史家ワークショップ：How to get your articles published（2017年5月21日）。

【司会】第68回日本西洋史学会大会 ランチタイムワークショップ「国際学会を有意義なものにするために」（2018年5月20日）。

【コメント】「アイスランド中世史からのコメント」日本ハンザ史研究会：フィリップ・ドラランジェ『ハンザ 12-17世紀』合評会（2018年7月21日）。

**学会での役職など（学会名）**

関西中世史研究会：事務（2013年1月～現在）

西洋中世学会：研究会・講演会組織委員会 委員（2013年6月～現在）

日本アイスランド学会：事務局・会計（2018年6月～現在）

**学会・分科会の開催運営（担当学会(大会)名(開催年月日)、開催場所）**

西洋中世学会 若手セミナー「Research Showcase in Medieval Studies」実行委員（2017年3月9日）、東京大学。

西洋中世学会 第9回大会シンポジウム「映像化される中世—語り継がれる史実とフィクション—」世話人（2017年6月4日）、首都大学東京。

西洋中世学会 若手セミナー「古典再読：チャールズ・H・ハスキンス『十二世紀ルネサンス』を読み直す」実行委員長（2018年1月20日）、同志社大学。

歴史家ワークショップ「第5回 Research Showcase」運営（2018年2月22日）、東京大学。

**(3)研究会活動等**

**①その他の研究活動参加（参加研究会名、調査活動名(期間)）**

西洋史若手研究者問題検討ワーキンググループ（2012年5月～2015年10月）

**②その活動による成果**

分担執筆（担当：「第5章 西洋史系若手女性研究者の現状と意識」）『西洋史若手研究者問題アンケート調査最終報告書』（2015年10月発行）

**(4)外部資金・競争的資金獲得実績**

科学研究費補助金 挑戦的研究（萌芽）研究課題：日本のマンガにおける北欧神話受容史の萌芽研究、課題番号 17K18482（2017-2018 年度）研究分担者

科学研究費補助金 基盤研究A、研究課題：海域ネットワークのなかのヨーロッパ半島：前近代ユーラシア史の観点から、課題番号 19H00546（2019-2024 年度）研究分担者

**(5)特許出願**

--

## 5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間）
②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間）
③(公益性の強い)NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間）
④(兼業規程で業務と見なされる範囲内での)企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間）
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等（事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間）
⑥その他（名称、活動場所、活動期間） <b>【講師】</b> さばえライブラリーカフェ第136回講演「アイスランドの自然と文学」、鯖江市文化の館、2016年7月21日 <b>【取材協力】</b> 「ヴァトナヨークトル氷河：スーパーブルー アイスランド」『週刊奇跡の絶景』（2017年15号）22-23頁、2017年、講談社 <b>【出演】</b> せんだい歴史学カフェ第56回放送「漫画『ヴィンランド・サガ』を語る～歴史とサガとフィクションと」ゲスト出演、東北大学、2016年6月10日放送 <b>【出演】</b> せんだい歴史学カフェ第86回放送「『ヴィンランド・サガ』の世界を語る！歴史とサガとエンターテイメント！」ネット中継、2019年7月19日 <b>【講師】</b> +ポケットセミナー、丹南自治研究センター、2019年10月9日 <b>【出演】</b> たんなん夢レディオ「お気楽サンデー」2019年10月27日 <b>【パネリスト】</b> 特別セミナー「アイスランド文化と言語」早稲田大学国際会議場、2019年10月25日 <b>【パネリスト】</b> トークセッション「『ヴィンランド・サガ』からみたアイスランド」立教大学、2019年11月4日
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
①公開講座・オープンカレッジの開講（タイトル名、開催場所、開催日時） 「再生可能エネルギーが語る21世紀—世界の声、地域の声をつなぐ」（第3回「アイスランドの自然エネルギー～最果ての国の自然との付き合い方」担当）福井キャンパス、2016年6月。 「ケンダイ・ワールド・ツアー ～県大教員が案内する世界の国々～」(第2回「アイスランド：最果ての島から生まれる文化」担当) 永平寺キャンパス 多目的ホール、2019年6月11日。
②社会人・高校生向けの講座（タイトル名、開催場所、開催日時）
③その他（名称、活動場所、活動期間）
(3)その他(個人の資格で参加している社会活動等)
(活動内容、主たる活動場所、活動期間) ゆるい食堂～鯖江市まちづくり基金補助対象事業～、鯖江市健康福祉センター アイアイさばえ、2016年10月～現在。

## 6. 大学の管理・運営

(1)役職(副学長、部局長、学科長)
(職名、期間)
(2)委員会・チーム活動
(名称、期間) ・全学 教育企画推進委員会 (2015年4月～2017年3月) 「福井県立大学論集」編集委員会 (2018年4月～2020年3月) 入試出題委員 (2019年4月～2020年3月)  ・学術教養センター内 教務・カリキュラム委員 (2017年4月～2018年3月) 人事委員 (2017年7月～2017年12月) 国際交流委員会 (2018年4月～2020年3月) 研究・広報委員会 (2019年4月～2020年3月)
(3)学内行事への参加
(行事名、参加日時)
(4)その他、自発的活動など
(活動名、活動内容、活動期間) 職場委員 (2016年4月～2018年3月)